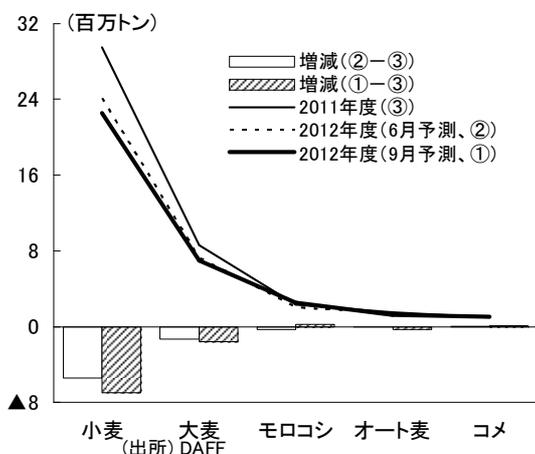


豪州小麦輸出に一段の減少懸念

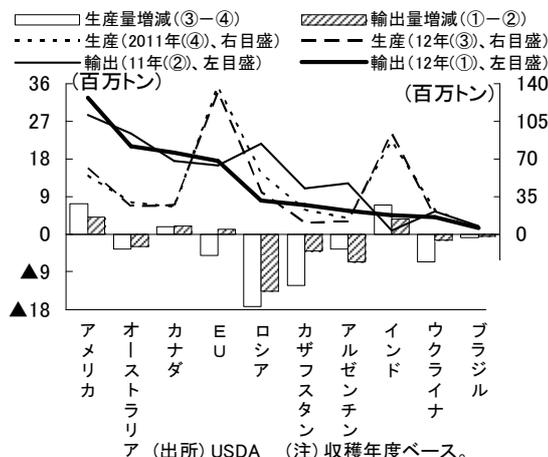
～ 早魃影響が深刻化 ～

- (1) 2012収穫年度の穀物生産について豪州政府が最新予測を公表（図表1）。米やオート麦は前回6月予測から大きな変化なし。しかし小麦や大麦は6月予測をさらに下方修正。11年度実績見込み、12年度の6月予測と9月予測を対比すると小麦は2,952万トン、2,412万トン、2,254万トン。大麦は857万トン、730万トン、696万トン。9月予測は昨年度に比べて小麦が▲697万トン、大麦▲161万トンの下方修正。
- (2) 同国の小麦生産量は世界第5位でEUや中国の5分の1。しかし、国内消費が少なく、輸出量では世界全体の2割弱を占めアメリカに次いで世界第2位（図表2）。本年度はロシアやカザフスタン、アルゼンチンをはじめ主要生産国で輸出が減り、アメリカやインド以外に穴埋めが期待できないなか、主要輸出国である同国の大幅な生産減は穀物需給の逼迫に拍車を掛ける懸念大。米農務省の最新世界穀物需給の12年度見通しで同国は小麦生産が前年比▲350万トン、輸出は▲300万トン。
- (3) 同国は国土の大半が乾燥気候。穀倉地帯は西オーストラリア州南西部、南東部のニューサウスウェールズ州とビクトリア州、南部の南オーストラリア州のいずれも沿海エリア。12年度は主要小麦生産エリアすべてで大幅な生産減（図表3）。とりわけ最大の生産州である西オーストラリア州では11年度1,173万トンから12年度711万トンと前年比▲462万トン。
- (4) 主因は早魃（図表4）。西オーストラリア州は冬小麦に最も重要な年央以降の降水量が例年比7月▲48ミリ、8月▲16ミリと大幅マイナス。同州に次いで小麦生産量が多いニューサウスウェールズ州では8月が同▲24ミリ。9月に入り早魃は若干緩和。しかし平年に近い降水量にとどまり、時期を含め早魃のダメージを打ち消すには力不足。需給逼迫に伴う一段の小麦価格上昇が視野。

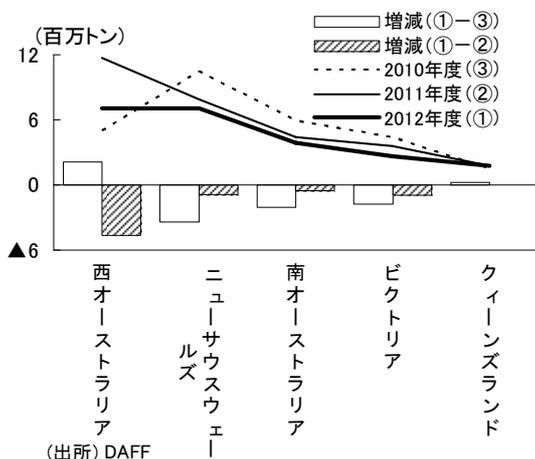
（図表1）オーストラリアの穀物生産（6月、9月予測）



（図表2）主要小麦輸出国の輸出、生産量



（図表3）オーストラリアの州別小麦生産量



（図表4）オーストラリアの州別降水量（平年差）

